

非常識<幸せ

1mm

[ありふれた非常識から小さな幸せを守っていきましょうの会]

「死んだ後ってどうなるのかなあ、って、やっぱ考えるじゃない？」

「……考えたことがないとは言わないけど」

「地獄には、行きたくないよねえ。労働基準法無いよねえ。寧ろ私が定める？」

「どんだけ権力付ける気なの。素直に天国行ってよ」

「地獄で、下剋上してくべきなのかな。それとも、天国で、……下剋上？　してく？　べきなのかな」

「のし上がるんだからどっちでも下剋上だろうね。天国行こ？」

「うーん……」

「何が引っ掛かっていると言うのだね」

「だってさあ、ぬくぬく育ててさ、権力付けてさ、それでいざ革命を！
ってなったとしても、それまでの現場を知らないわけじゃん？　言葉だけで伴うものが無いってか魂入れられないってかさあ、」

「まあ、的確な改革には、最初からは出来ないだろうね」

「死後の身体で魂入れるって表現使っているのかな」

「死後の身体ってか、死後は寧ろ魂しかないと思う」

「あ、そっか」

「言葉は例えだしどうでもいいよ」

「南無。」

「南無。で？」

「そうね、だから、やっぱり地獄からの這い上がりコースが全うかなあと思うわけですよね」

「気が遠くなるような夢だね。そもそも、這い上がる前に耐えられないでしょ身体が」

「身体」

「魂が」

「うーん……」

「てかもっと前提を言うと、地獄に落ちるようなことしでかしてから死なないといけないんだけど。何すんの。何が出来るんの」

「……。……親より早く死ぬ？」

「まさかの河原コース。きつ。てか、止めろ親不孝者が」

「だよねー私も気持ちきついわ」

「天国行けよ」

「うん」

「はい、おててのしわとしわを」

「合わせてしあわせ！」

「南無一」

「南無一！」

*

(お願いだから、幸せでいてよ。)

*

「どうしてイギリス人には妖精さんが見えるのに、日本人には見えないんだらう」

「信仰心薄いからじゃない？」

「そうかなあ」

「信仰心も薄いし、関心も薄い」

「そうかなあ……」

「……何かあったの」

「んーん、私も、そだね、やっぱり信じてるってには言えないけど、だって勿体無いじゃん。ネタはたくさん有るのに妄想広げられないとか」

「想像力豊かになれないって言いなさい」

「発想に繋げられる視野育めないの勿体無い」

「ちょっとくどいけどまあいいよどうでも」

「ひどい。まあ、で、見えたら、面白そうなのになあって思った」

「まあね。でも、ファンタジー要素入ると一気に非現実的になるからなあ、うーんってなるもんなあ。世界観違うって捉え方になっちゃうとかね」

「ねー……。現実に馴染むような、そっとそこにある怪奇、みたいな。のが、いいなあと思って」

「分からんでもない」

「……私が怪奇になるか」

「生きながら妖怪の異名持つような女の子になってしまう展開とか絶対止めて」

*

(平和に生きてよ。)

*

「昔話の登場人物になるなら、どれがマシかなあ」

「えー……、」

「順応性高いよね大体皆」

「そういう世界だからね。……笠地蔵なら平和じゃないかね」

「ああ。でも私寒い駄目なんだあ」

「……ジャックと豆の木」

「……高所、」

「……じゃあラプンツェルも……ってかグリムはまず却下。平和なおはなしって何があるかね」

「三年峠で転んだならば」

「三年きりしか生きられぬ。あれ痛いよ」

「痛い」

「昔話ってより教養読み物だし」

「そいえば、とりかへばや読んだんだあ」

「……あの世界に入るの絶対やだよ？」

「古典時代の人の世界観ってめっちゃ……あれだよね」

「それこそ、カオスが日常に混じってた時代だしね。こないだの話じゃないけど」

「妖怪見えたら怖いなあ。妖精さんならいいけどなあ」

「妖精さんも日本人が思うほど可愛くないと思うけどね多分」

「可愛いといいのに。字面だけだとローライとか牡丹灯籠とか可愛いよね」

「字面だけね？」

「昔話の人物の名前って可愛くないね」

「固有名詞ってより、渾名みたいな付け方だしね」

「寒い駄目だからローライはキツイけど、ずっと水の中にいたら麻痺って平気なのかな。人魚姫とか」

「人魚でいいなら日本人だし蠟燭塗ろ」

「町滅ぼすのやだ平和に生きたい」

「そう？ ならよかった」

*

(平和に生きる気はあるらしい。)

*

「楽しいことなら、いっぱい」

「夢見ることならあめいっぱいあい？」

「今日悪夢見た」

「う、うん」

「夢の中ってカオスだよね」

「思い通りに行かないからね」

「自分の中のどこにあんな発想眠ってるんだらうって展開になるよね」

「そだね」

「……」

「……泊まり来る？」

「うん」

「そいえば、夢の中に入りたいとは、思わないんだね」

「うん。何か、夢は、現実繋がってそうで、怖い」

「出られなくなりそうだよね」

「止めてよおおおお」

*

(幸せな夢を見られますように。)

*

＊

強制終了1,908字。

身の回り、普段の意識の中にも、結構色んな世界が潜んでるよねってお話。

高校生の中身の無い会話楽しい。

＊

補足

- ・河原コース：賽の河原。親供養の為に積み石し続ける罰。
- ・笠地蔵：お地蔵さんに雪積もらないようにしてあげたら恩返しされた話。
- ・ジャックと豆の木：窃盗働いても無事幸せになれる話。
- ・ラプンツェル：髪長い女の子のえろぐろ。
- ・三年峠：転んだら三年で死ぬという峠で、転んじやったけどこれ何回も転べば三の倍数で長生きできるんじゃないかねってごろんごろんする話。
- ・とりかへばや物語：平安兄妹が、性格故に性別逆な育て方をされるも、勤め半ばで結局バレて、元の性別に戻って大成する話。
- ・ローレライ：歌で誘って難破船を海の藻屑へ変えちゃう。
- ・牡丹燈籠：好きすぎ死した女霊のヤンデレ。
- ・人魚でいいなら：赤い蠟燭と人魚。老夫婦が人魚の赤ちゃん拾って育てるも、見世物小屋に売っちゃって、怨んだおかーさんに集落ごと滅ぼされる話。